



NPO PTPL “ともいき” 便り No.123

平成 29 年（2017 年）5 月 21 日発行

■小満（しょうまん） 5 月 21 日から 6 月 4 日までの節気

5 月 21 日（日）から小満の節気にはいります。

小さいの「小」と満ちるも「満」とかいて、「小満」。山野が緑にみちあふれ、麦刈りの頃です。

そして、七十二候では、5 月 31 日から 6 月 4 日までが第 24 候「麦秋至（むぎのとき、いたる） 麦が熟して畑一面が黄金色になる時季。」とあります。

なぜ、この時季に麦秋至という文言が出てくるのでしょうか。

5 月の季語に「秋の麦」があります。麦の黄ばむころを麦の秋と呼びますが、麦秋は陰暦四月の異名だそうです。「秋」の語源をたどれば穀物の成熟収穫の季節ということですから、麦の秋の言い方は、季節は夏でも理にかなうことになります。

「むぎあき」に対して、秋の稲の取り入れのころも「こめあき」と言いますから、これも理にかなっています。一面に黄ばんだ麦畑から立ち上る諸奥物の乾く匂いや埃の匂いに郷愁を感じる人は多いのではないのでしょうか。

さて、この節気の記念日をご紹介します。

●5 月 27 日は「百人一首の日」。

1235 年（文暦 2 年：嘉禎元年）のこの日、藤原定家によって小倉百人一首が完成されました。

藤原定家の「明月記」の文暦 2 年 5 月 27 日の項に、定家が親友の宇都宮入道蓮生（頼綱）の求めに応じて書写した和歌百首が嵯峨の小倉山荘（嵯峨中院山荘）の障子に貼られたとの記述があり、この記事が小倉百人一首の初出ではないかと考えられています。

ご存知のように、百人一首は天智天皇から順徳天皇の時代まで 100 人の歌人の歌を一首ずつ取り上げた歌集です。

近世以降、歌カルタとして普及し、現在にいたっています。

百人一首の解説本は数多くありますが、数年前、これまでとは違ったとても素晴らしい解説本を読みました。

この筆者は、百人一首を通して、以下のことを伝えようとしています。

①読み手はその歌に書かれた文字から、詠み手の真意を「察して」いかなければなりません。「おもてなし」も「思いやり」も「察する」心がなければ、成り立たないものです。「察する」という文化は、あらゆる日本文化の原点になっているということ。

②「百人一首」は百種で一首の壮大な抒情詩なのだということ。

③「百人一首」は、晩年の藤原定家が、良き時代の精神を後世に残そうと、百人の歌人とその歌を使って、天皇と貴族が統治した約500年間をひとつの抒情詩にしたものです。日本とは何か、日本人とは何か、日本精神とは何かをはっきりとした形をもって理解できるようになるということ。

参照：ねずさんの日本の心で読み解く「百人一首」 著者：小名木善行
彩雲社発行

●5月28日は「花火の日」

1733年(享保18年)のこの日、隅田川で水神祭りの川開きが行われ、慰霊を兼ねた花火が打ち上げられました。

この年は八代将軍徳川吉宗の治世で、全国的に凶作に見舞われ、大飢饉になったうえ、コレラ(コレラ)が大流行して多くの死者が出た。この慰霊をかねて打ち上げた花火はやがて庶民の楽しみとして定着した。そして、玉屋と鍵屋が技を競うようになり、花火師を応援する掛け声「たまや〜」「かぎや〜」が生まれたとのこと。

佐藤 誠 (NPO PLANT A TREE PLANT LOVE事務局)

■ともいき・ともうみ・ともさち、そして和。 雑感彼是
利己主義。

家の近所の舗道を歩いていると前から自転車がきたので、ちょっと左側によけ

るつもりだったのですが、私の右腕に自転車のハンドルが接触しました。ちょっと痛かったのですが、別にケガということはありませんでした。しかし自転車を運転していた若い女性は私の腕にぶつかったのを感じたはずですが、何事もなかったように振り向きもせず、声もかけずに行ってしまいました。

このように、最近、周囲に気配りできない人が目立つようになってきています。コミュニティを大切にしている日本なのに他人の迷惑を顧みない利己主義がはびこっている湯な気がします。

困ったことですね。

ジャパネスクの精神を大切にしましょう!!

利己主義に対する感想が届きました。

私の友人のN氏から電話があり、ジャパネスクのFBで「利己主義」という文章を読み、感想を寄せていただきました。

以下のような内容でした。

「最近、周囲に気配りができない、他人の迷惑を顧みない、世間体など全く気にしない利己主義がはびこっているということですが、全く同感。自分さえよければいい、人のことなどかまっていられないという刹那主義というか、利己主義というか、そういう人が多くなってきています。特に若い人に多いように感じます。利他というか、「ともさち」というか、そういう心懸けを持って少しでも毎日生活したいものです。

手本となるような大人が少なくなっているということは確かです。貴NPOの「ジャパネスク運動」はこれからの日本にとって、日本人にとって、とても肝心の運動のひとつだと思います。日本の良さを力強く、取り戻そうではありませんか。」というご感想でした。

ジャパネスク



勝田 祥三 (NPO PLANT A TREE PLANT LOVE 理事長)

■事務局だより

- 天気の良い日は、事務所近くを流れる目黒川の散歩が昼時の楽しみになりました。

約1か月後には梅雨に入るでしょう。それまでの間、天気の良い日は暖かい日差しをいっぱい浴び、さわやかな風に吹かれながら梅雨に備えたいと思っています。

- 是非、NPO PTPL が企画制作運営するサイト・FB をご覧ください。

「NPO PTPL 公式ホームページ」：<http://www.plantatree.gr.jp/>

「ジャパネスク」：<http://www.japanesque.tokyo/>

「ともいき暦」：<http://www.tomoiki.ptpl.or.jp/calendar/2016/>

「ともいき ぐらし」：<https://www.facebook.com/tomoikigurashi>

「おらが富士 計画 ふるさと山」：<https://www.facebook.com/oragafuji/>

「不思議・驚き・魅力のジャパネスク」

<https://www.facebook.com/japanesque.tokyo/>

- 会員募集のご案内

NPO 活動を推進していくためには、多くの皆さま方のご支援・ご協力が不可欠です。

NPO PTPL では、常時、個人会員と法人会員を募集しています。この便りをお読みの方で、ご本人またはお知り合いの方々にご案内いただければ幸いです。詳しくは下記まで、メールまたはお電話・FAX にてお尋ねください。

- NPO PTPL は「ジャパネスク運動」推進中です。

ぜひ、「ジャパネスク」サイトのメニューのひとつの「ジャパネスク語り」

(<http://www.japanesque.tokyo/katari.html>) をお読みください。

NPO PLANT A TREE PALNT LOVE 事務局

〒141-0022 東京都品川区東五反田 2-7-11 東都ビル 201 号

電話：03-6432-5911 FAX：03-6432-5912

Email：info@ptpl.or.jp